田尻だより

平成 22 年
2月 号
Vol. 83

次の田尻便りは
3月1日発行予定です

二月。節分すなわち冬と春の季節を分ける節目の日を迎えます。

農閑期でしょと言われますが、一年で最も重要な仕事の節目です。今年度の作付方針を決め、体系化・文章化し、取組農家に説明・協議して栽培がスタート。

今まさに、年度の節目を迎えております。

1月下旬、大崎市の田んぼに1羽のタンチョウがやって来ました。

かなり人に追い回されたのか、数日前から蕪栗沼に来ています。

〔農業者の姿〕

田尻にお嫁に来て、一番強く感じたこと。それは、農家が農業に対してとても真剣である、ということでした。

和歌山の実家では、何枚かの小さな田畑で米や野菜、果樹などを作っていました。しかしそれはどこか浮世離れした農的生活であり、都市化・急速化してゆく中の最後の残され島のような、そんな懐古的存在でした。

ところが東北の農家は、もっと力強く、したたか。冬に作物が育たない東北だからこそ、誰よりも米作りに真剣で、農政や農業技術に精通し、農地が生き残る術（すべ）を貪欲に追求する。

それは、日本の主食、農業という産業を根幹から支える、誇り高き農業者の姿。時代のせいと諦（静かに死んでゆく）めるのではなく、あがいてでも前（未来を作ろうとする）を見るその姿勢に、私は強く、心打たれたのでした。

タンチョウが、沼の雁たちと過ごす姿は、何とも感慨深いです。

オオヒシクイとタンチョウ。さすがに鶴は大きい…

そっと見守りたい一方で、多勢の人が一目見ようと沼につめかけています…。

米暦 ～こめごよみ～

1月8日、15日、18日、22日、26日、29日　米検査をしました。

1月20日～2月1日　取組農家の地区別説明会を実施しました。

（農閑期のため、農作業はお休みです）

嫁日記

節分と言えば豆まき。スーパーでは鬼のお面と一緒に色んな豆が売られていて、子供達のテンションも否応なしに高まっています。

＊＊＊

ところで、皆さんのお家ではどんな豆をまきますか？私の実家では、ごく普通の炒った大豆をまくのですが、小野寺家では殻付き落花生をまくのです。確かに落ちて汚れても問題なく食べられますが、いかんせん風情がなあ～と、私は未だに抵抗を感じております。

＊＊＊

その節分も、幼稚園では誤飲防止と大豆・落花生アレルギー対策で、豆まきをしない方向になっています。何とも残念なご時勢です…。

絵と文／小野寺ひかる